

## 亀山市辺法寺地区のフェロシルト投棄現場の状況

平成 18 年 4 月 17 日(月)

### 【フェロシルトの問題と発生経緯】

フェロシルト問題は、平成 16 年 12 月末に愛知県で施行現場からの流失問題を契機に、製造のメーカーである、石原産業(株)は、フェロシルトの製造・販売を中止すると共に、三重県にリサイクル製品の認定を取り下げた。また、三重県は、施行現場 6 箇所での重金属等の調査結果を平成 17 年 7 月に公表。施行現場から、土壌環境基準を超える 6 価クロム、フッ素等が検出された。県の「三重県リサイクル製品利用推進条例に基づくフェロシルトの認定経緯」が、緊急課題となった為、平成 17 年 8 月、県は、「フェロシルト問題検討委員会」を学識経験者によって設置された。平成 17 年 10 月石原産業(株)は、不正製造等を公表し、石原産業による「埋め戻し作業」が開始され、今日に至る。

亀山市辺法寺地区に、13 万 5 0 0 0 トンの「フェロシルト」と呼ばれているリサイクル製品が投棄されている。「亀山の自然環境を愛する会」のメンバー(敬称略浅田、尾崎、平田)は、その埋め戻し作業の現場に行ってみた。現場を見る限り他県のフェロシルト埋め戻し作業より遅れている印象は免れないと感じた。現場には、フェロシルトの赤い固まりが露出しており、原田川に流れる小川は酸化第二鉄の橙色に染まっていた。当日は埋め戻し作業は行われていなかった。

以下現場写真を添付。



表面に露出しているフェロシルト  
あちこちに散在していた。



埋められた場所に植えられている  
お茶の木も成長していない



埋められた場所には、埋め戻し用の土  
が山に積まれていた。



投棄現場から原田川に流れる小川は  
色が変わっていた。